



私たちは聴くことを大切にします。

ESの文字を左右対称に合わせることにより  
対等な関係で耳を傾け心のささやきにも寄り添い  
聴くことを表現しています。

NPO 法人えんばわめんと堺/ES  
NO.41 2023年4月発行

## も く じ

- P2 『北野真由美が語るこどもまんなか社会』  
NPO 法人えんばわめんと堺 代表理事 北野真由美
- P3 【事業報告】中区子育てひろば
- P4~5 【事業報告】人権 NPO 協働助成事業  
『子どもとおとなのエンパワメント事業』
- P6~7 【事業報告】HR(Human Rights)プロジェクト
- P8~9 【事業報告】SAYの会
- P10~11 子どもの権利条約関西ネットワークの活動から
- P12~13 【研修報告】辛淑玉さん・重永侑紀さん
- P14 CAP 活動報告・日本きょうだい福祉協会設立
- P15 ES からのおすすめ書籍
- P16 事務局からのお知らせ



えんばわめんと堺 事務所の玄関前にて

# 北野真由美が語るこどもまんなか社会



2023年4月に発足した**こども家庭庁**は、こどもの最善の利益を第一として、こどもの視点に立った当事者目線の政策を進めていくための政府の機関です。

こども家庭庁では、「こどもまんなか社会の実現」をコンセプトに掲げ、こどもや若者にとって一番良いこととは何かを考え、何よりも大切なことは、こどもの意見を聴くこととしています。

こども若者★いけんぱらす <https://t.co/9Vk846YGTj>

こども家庭庁の設立と同時に、新たに「こども基本法」も施行され、これによりこどもの権利が法律により守られることとなります。この「こども基本法」はこどもの権利の保証が明記されていて、その背景には子ども権利条約があります。

※子ども権利条約は、1989年国連で採択され、日本では1994年に批准しています。

こどもの声を直接聴き、より良い生きやすい社会へと反映していくという点では、当団体の長年のスローガンでもある「こどもの権利を尊重し、こどももおとなも安心して生きていくための地域社会づくり」と相まって、一層の励みとなります。

特に、**聴くことを大事にしてきた私たちのプログラムには、オリジナルでつくった合言葉『目・耳・ハートは聴くあいず』を定着させ、この聴く姿勢を、相手をたいせつにする力と伝えています。**

人は本当に困ったとき、誰に、どこで、どのようなタイミングで相談するでしょうか？無条件の肯定的関心に基づく傾聴により、この人なら思いの丈を話せる、自分のことを信じて守ってくれる、そして決して裏切らないなど、安心・安全だと思える関係や環境を求めます。

こども家庭庁の政策推進により、こどもの参加を促し、声を聴こうとしても、こども自身が安心・安全な環境であると確信しない限り、建前的な言葉しか引き出すことはできません。こどもの内なる声を拾い上げるためには、先ずは私たちおとなが、安心だと思える関係性、安全だと信じられる環境を構築することが最優先課題であると考えます。

また、もう一つ私たちが常々意識していることは、おとなが、おとなとしての正しい自覚を持った上で、こどもを一個人として認識することです。こどもを無力としてみなすことと、こどもの持つ潜在的な力を意識し接するのでは、関係性に大きな違いをもたらします。こどもの言動や行動、その一つ一つに意味があると捉える見方では、それらをどこで、どのように身に付けてきたのかを探ることにより、社会の課題へと繋がります。こどもの力を信じて認め、その気持ちや考えにしっかり耳を傾けてこそ、本当の「こどもまんなか社会」を実現できるのではないのでしょうか。

2023年4月

NPO 法人えんぱわめんと堺/ES  
代表理事 北野真由美

## 堺市 中区子育てひろば

2023年4月、開室8年目を迎えている子育てひろば「うきうきルーム」です。

コロナ禍における影響から、ひろばの利用は午前午後それぞれ8組ずつの予約制になっていますが、人と関わりを持ちたい、子ども同士交流させたいとのおもいで、うきうきルームなら安心できるからと予約をして来てくださっています。

この春の季節、保育園や子ども園に通われることになった方はひろばを卒業され、また新しく来室される方々との出会いがスタートしています。

そしてもう一つの新しいスタートは、こども家庭庁が発足され「こどもまんなか社会」の取り組みが始まったことです。子どもの権利を大切に、その意識を広めたいと考えている私たちにとってチャンスの時だと捉えています。

例えば、子どもたちが過ごす中でおこりがちなおもちゃの取り合いの場面。おとなはトラブルにならないようにと子どもが使っている「どうぞ」とおもちゃを譲る。反対に取りに行った時は「だめ」とストップする。子どもの気持ちは置いてきぼり状態になっている場面が多々あります。

ある日「おもちゃを貸してと言われたけれど、そのお母さんは”今使っているから後でね”とおっしゃっていたのを聞いてすごいと思いました」と話してくださる方がいらっしゃいました。そのことに気づかれたことも嬉しく、そしてひろばが利用者さん同士の交流だけでなく学びの場になっているのだと改めて実感しました。

わたしたちおとなは、自分が育てられた時と同じような声かけを子どもにしがちです。トラブルの不安を避けるための気遣いの言葉ではなく、こどもを軸とした声かけのバリエーションや子どもにとって一番いいことは何かを一緒に考えることで、子どもの権利が守られることがあたりまえの社会につながると思っています。安心できるひろばでたくさん経験してもらい、子育てにおける不安や迷いが少しでも安心や自信となるように願っています。

そして大勢の中に入るのは苦手な方、人見知りだから話しかけられたくない方も、子どものためにと頑張っていること、気軽に来室されている方ばかりではないことも忘れてはならないと思っています。

まずは、はじめの一步をふみ出してもらえるよう、引き続き「ひとりじゃないよ」のメッセージと、ひろばの敷居をできるだけフラットに感じてもらうよう、私たちスタッフも時々立ち止まりながら、学びと工夫を重ねていきたいと思っています。 (さこちゃん)



## 【事業報告】

【民間公益活動を促進するための休眠預金等に関する資金の活用に関する法律】に基づく

人権NPO協働助成事業

『子どもとおとなのエンパワメント事業』 報告その5



助成事業2年目、エンパワメント育成の講座が無事に終了しました。

子ども対象・おとな対象のトータル20講座！！多様な支援者の学び合いの場になりました。

エンパワメント研究会  
全5回



“子ども支援”エンパワ  
メント講座 全5回

②子どもの権利について  
長瀬 正子さん



①子どものジェンダーについて  
田中一歩さん 近藤孝子さん



③子どもの特別支援について  
伊丹 昌一さん

④子どもの遊びについて  
根岸 基子さん



⑤子どもの暴力(虐待)について  
杉山 春さん



支援者のためのエンパ  
ワメント講座 全10回

子ども対象2回 のびのびルーム



おとな対象8回(子育てひろば、  
教職員研修、施設など)



2023年度も講座開催します！！ お楽しみに！

By ありちゃん

## “子ども支援”エンパワメント講座 参加者の感想

### ①子どものジェンダーについて 田中一歩さん 近藤孝子さん

○性のことを意識しているつもりであるが、自分の発している言葉で誰かを傷つけているかもしれないと感じた。“性自認に理由はいらない”という言葉にすごく納得できたし、使っていきたいと感じた。

○性自認について深く考えた。就学前の子が性自認、わりあてられた性と自分が感じる性が違っていて気づいたときの周りの反応・・・そして理解が得られにくいとわかった時の『なかったことにする』とはどういう心境か。一人ひとりそのままでもよいを心において子どもと関わっていきたい。

### ②子どもの権利について 長瀬 正子さん

○気持ちを子どもの権利条約につなげ、何が不足しているのかを考えることができた。コロナ禍を歴史の一部と考え、この後のケアを考えていくという明確さが印象に残った。何を今、そして今後できるかを考えることができた。

○子どもの権利を尊重していくためにはやはり子どもの声、意見、気持ちを「聴く」ことが必要と改めて思った。コロナを題材にネガティブ・ポジティブの影響を考えることで、子どもの権利について具体的に考えられることができてよかった。守られていない部分をどう埋めていくか考え行動にうつせたらと思う。

### ③子どもの特別支援について 伊丹 昌一さん

○伊丹さんのお話を何度もきいて自分(支援者)自身を大切にすることや支援者としてポジティブにハッピーライフを手に入れることも身につけていると思います。これからの支援に子どもを理解する・一人ひとりと向き合うことを続けたいと思います。

○子ども一人ひとり違う中、その子どもがどう支援すればその子が困らないかを考えるために学校教育の中、教師が役割分担できるよう教師の人数や体制の充実が必要と感じました。また、家庭・支援する側の人々が共通理解、支援するために学びは必要。

### ④子どもの遊びについて 根岸 基子さん

○あそびは「いのちの根っこを支えている」という言葉が印象に残った。大人になってもあそびは人生のエッセンスとしてとても大切だと思う。

○あそびが“命を大きくして生きることにつながる”ということが印象的でした。大人が子どもの遊びをコントロールして満足している現状が子ども自身が何していいか分からん、自由に遊びが出来ないにつながっているんだとつくづく感じました。

### ⑤子どもの暴力(虐待)について 杉山 春さん

○エンパワメントの必要性を感じた。助けてと言える社会、人権一人ひとりが尊重される社会、活動をやらすにはいられない。

○正しさのある家庭の怖さ、価値観をうつけられている親がまちがった正義感によって苦しめられていく背景の負のループをくずしていきたい。決まった型のかぞくではなく、色々あることを知ることもおとなも子どもも必要で、弱くてもいい、失敗してもいい、もっとSOSを発信しやすくなるよう、子どもたちには「信頼」を体験してほしいと思いました。

今朝は大阪市内の小学校に向かった。小学3年生に向けた HR のワークショップだ。今日のワークショップのメインテーマは「自分も相手も大切に作る気持ちの伝え方」

子どもの前に立つ前に、自分はどんな場面でどうなのか？と無意識的に考えている。これらの問いは、これからクラスで子ども一人ひとりに問いかける「問い」に重なる。

「感情表出することって結構ハードだなと私は感じている。」  
どんな条件で私はハードさを感じるか。その時々で変わるので、たまに自問自答する。

結構、場の雰囲気左右されるな。とか  
いや、その時々自分のコンディション(調子)によるよな。とか  
いやいや、結局、色々考えすぎているな。とも思ったりもする。  
伝える言葉、伝えるタイミング、伝える場、相手との関係性、などを熟考していると伝える目的を見失いそうにもなる。  
やっぱり自分の感情理解とその感情表出って結構複雑でハードなんだな。とか

私は、言葉にできる感情もできない感情も自己完結的な終結は不向きで、感情に、やじるしがくつきりに見えるときには、このハードな思考錯誤を得て、相手に伝えてみることの方が多く思う。無論、このハードな試行錯誤をいくつもスキップするときの方が多。

今日のワークショップで出会った子どもたちにも同じように問いかける。  
「どんなときにこんな気持ちになる？」  
「こんな気持ちになったとき相手にどうやって伝える？」  
「自分も相手も大切に作る気持ちの伝え方ってどんな伝え方ができるのかな？」

ワークショップの中で子どもたちの発言を聴く。  
「本当は悲しいけど、顔では笑ってる」  
「相手に心配かけるから」  
「まわりに迷惑かけるから」  
「相手をイヤな気持ちにさせるから」

子どもに関わるおとなとして、子どもが安心して気持ちを言える関わりがしたい。  
クラスへの問いかけと子どもの多様な本音を重ねながら、コンクリュージョンを模索したい。

気持ちを表す言葉が豊かであるほど、自分の感情を相手に伝えやすい。  
言葉は気持ちの自己理解を促進させる。  
自分の気持ちを相手へ伝えることが、他者理解、相互理解へと繋がるとは限らない。  
それでも、「自分も相手も大切に作る気持ちの伝え方」を考える過程の中で、クラス全体で、子ども同士の声を聴き合うことに、大きな意味を感じている。 (れもん)



教育関係 (学校・園)	<p>—子ども対象(クラス単位)—</p> <p>&lt;豊中市&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●西丘小学校(1年生~6年生 全学年21クラス)           <ul style="list-style-type: none"> <li>1年生3クラス 「感情~気持ちを言葉で伝える」</li> <li>2年生3クラス 「納得のいく断り方」</li> <li>3年生4クラス 「自分も相手も大切にコミュニケーション」</li> <li>4年生4クラス 「一人ひとりの境界線」</li> <li>5年生4クラス 「自分で考えて行動する」</li> <li>6年生3クラス 「うわさのしくみ」</li> </ul> </li> </ul> <p>&lt;大阪市&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●望之門保育園(年長児1クラス) 「わたしのからだと気持ちはわたしのもの」</li> <li>●大阪市立長吉小学校(3年生3クラス) 「たいせつな気持ち~気持ちを伝える」</li> </ul> <p>—おとな対象(教職員・PTA・企業)—</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●豊中市立西丘小学校PTA地区懇談会 「あなたのストレスコップがあふれる前に~自分の心の声をきいてみよう~」</li> </ul>
子育て支援関係	<p>—おとな対象(一般)—</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●堺市西区子育てサロンおたまじゃくし           <ul style="list-style-type: none"> <li>1回目 「アンガー(怒り)マネジメントを学ぼう」 ~イライラさんをちょっとすっきりさせよう~</li> <li>2回目 「人と人との心地よい境界線~自分も相手も大切にしている関係づくり」</li> </ul> </li> <li>●中区子育てフォーラム「イライラ!!みんなが傷つけないために」 ~アンガー(怒り)マネジメントを体験しよう~</li> <li>●中区うきうきルーム子育て講座 「アンガーマネジメントを学ぼう!!」</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>●チャイルドラインいずみ受け手ボランティア講座 「コミュニケーションって何だろう」</li> </ul>

## 2022年度 中区子育てフォーラム

### 「イライラ!!みんなが傷つけないために」~アンガーマネジメントを体験しよう~

コロナ禍でなかなか対面講座ができず、一昨年は子育て支援課のHPでメッセージ、昨年はユーチューブ配信、そして今年は待ちに待った対面での講座が開催できた。地域の委員のみなさんの熱心な声かけで子育て中の保護者、民生委員、こども園の教職員など約80名の参加者が集まった。

日常、腹が立ったりイライラすることは誰にでもある。お決まりの言葉だが、腹が立つ気持ちはちっとも悪くない。怒ってもいい!大事なものは腹が立った時にどう表現するか...自分も相手も傷つけない、そして物も壊さない。異年齢の様々な立場の方が集まり、自分自身の怒りの感情に向き合い、ともに考えた。

### POINT!!

\*たいせつな気持ち...気持ちに○×はない、自分の気持ちは自分のもの、人のせいにしない、人の気持ちをひきうけすぎない

\*怒りの温度計...自分の怒りに気づく。一人ひとりの違いを知る。感情と価値観。

\*怒りの扱い...怒ってもいい。自分も相手も傷つけない、物もこわさない方法

終了後たくさんの参加者が質問にきた。個々に自分の気持ちを吐き出した!

みんな話したい!いっぱい聴いてほしい!そんな気持ちが伝わった。

頑張ってるね!いいよ~それで!子育て頑張っている人をエンパワメントする。

数日後、自団体が運営している子育てひろばの利用者さんからサクセスストーリーの報告があったことを聞いた。すぐに実践する行動力、スゴいなど心から思った。

心にため込まず吐き出すことの大切さを改めて感じた。 (By ありちゃん)



## SAYの会

今年度も、小学校から高等学校まで、沢山の生徒さんたちに出会うことができました。からだのこと、心のこと、生命のこと。自分の命・他人の命・まだ見ぬ命についても語り合いました。小学校1年生から6年生まで系統立てて、毎年、性の健康教育に取り組んでいる学校もあります。2年生の感想に『お医者さんになりたいから体のこと教えてくれてありがとう。もっと教えてほしいです』とありました。子どもたちの前のめりの様子が思い出されます。



SAY（性・生）の会は看板通り、指導や講演会ではなく生徒さんと「話し」ます。一部を紹介。人との関わりの中で対等って、どういうこと？いくつかの例を出しながら考えてもらいます。デートDVって聞いたことある？『DVは聞いたことある』『中・高校生にもあるんや？』『うちの彼氏DVやで、でも怒ると面倒やからほってる』『嫉妬もあかんの？』嫉妬の出し方が難しいよね、嫉妬が束縛にならないようにするにはどうすればいい？



付き合いの話題の中で、性的同意って知ってる？『どうやって聞けばいいのか分からんし、恥ずかしい』こちらのアクションに相手が「NO」って言わなければ、「YES」と思う？『そうではないけど、キスの直前に「キスしていい？」「とか聞くのも、聞かれるのも気まずいわ』『え～、私は聞いてほしいよ』『男は断りにくいで』

キスを断われたら相手のこと嫌いになる？『ちょっとショックやけど、嫌いにはならない』『別れるとかはないわ』じゃあ、安心して自分の気持ちを伝える方がいいね。相手が「イヤ」を言わず、無理やり自分に合わせてくれるのは嬉しい？『それはない』『言ってほしい』それから、性的同意を取るのには『ムードが壊れる』という意見があったよね。じゃあ、事前に話し合っておく必要があるよね。2人はキスOKなのか、それ以上の性的な関係を持つことについてどう思っているのか、どのタイミングで話し合うのがいい？『付き合ってからすぐは良くないで』『それは引く』『信頼関係出来てから』じゃあ、信頼関係ってどうやって積み上げるん？『ワイワイ』真剣に話します。

男やろ！とか女やったら・・・でイヤな思いしたことない？『ある～』今から模型にコンドームつける練習するよ『え～マジ?!』一人で家で練習って実際できる？初めて使って上手くいかなかったら余計に困るで。『そうやな、ちゃんと練習しとくわ』『表裏あるの知らなかった～』『次のクラスの子にも言っとくわ』『他の学校の子にも教えに行ってもらいたい』

SAYの会では、生徒さん同士が共に語り、共に考えます。その中から様々な疑問や答えが出てきて、私たちは促進役。お互い聴き合い、理解し合い、学び合う、ワークショップの醍醐味です。そして、性の学びは自分を大切にすることに繋がり、自己肯定感を育みます。（はしもと）

2022年度 SAYの会 活動実績

<p>子ども対象</p> <p>小学校 中学校</p>	<p>徳島県阿南市立大野小学校 1年～6年「いのちの安全教育」          大阪狭山市立公民館 まなびーば「大人になる前のあなたへ          こどもの里 中高生「からだを知る、そして一人ひとりの性の境界線」          大阪府立豊中支援学校 中等部「性と生きる～人と人との境界線～」          大東市立大東中学校 1年生「デートDV予防教室」          大阪府立守口支援学校 3年生「こころとからだの学習」          四天王寺小学校 1～6年生「こころとからだの授業」          大東市立諸福中学校 3年生「デートDV予防教室」          大東市立北条中学校 2年生「デートDV予防教室」          大東市谷川中学校 3年生「デートDV予防教室」          大東市南郷中学校 2年生「デートDV予防教室」</p>
<p>高等学校</p>	<p>大阪府立長吉高等学校 1年生「産業社会と人間① 性・生を考える」          大阪府立大冠高等学校 2年生 「デートDV防止授業」          大阪府立藤井寺高等学校 1年生「性と生の健康教育」          大阪府立大正白稜高校 1年生「思春期の性・生をともに考える」          大阪暁光高等学校 3年生「いのちの尊さ・予期せぬ妊娠をどうとらえるか」          大阪府立高槻北高等学校 2年生「自分も相手も大切にしよう性・・・」          大阪府立布施高等学校 定時制「自分も他人も大切にしよう性・生」          大阪府立長吉高等学校 1年生「産業社会と人間②」          大阪府立寝屋川支援学校 1年生「～大切なからだと気持ち～」          大阪府立長吉高等学校 1年生「産業社会と人間③」          大阪暁光高等学校 1年生「人権を視点に性・生を考える」          大阪府立農芸高等学校 2年生「性を人権の視点で考える～対等な関係性」          大阪暁光高等学校 1年生看護科「人権を視点に性・生を考える」          大阪暁光高等学校 2年生看護科「人権を視点に性・生を考える」</p>
<p>おとな対象</p>	<p>大阪府教育委員会 調査協力          大阪府教育センター「学校におけるセクシュアル・ハラスメントの防止と対応」（基礎編）（応用編）          徳島県阿南市教育委員会 「いのちの安全教育」性を人権の視点で考える          大阪府立西淀川支援学校教職員 「セクシュアル・ハラスメントの防止研修」          堺市中区うきうきルーム子育て講座 「自分のからだを大切に」          大阪府立生野支援学校高等部 教職員 「より良い関係づくり」          大阪府立八尾高等学校 教職員 「～セクシュアル・ハラスメント防止～」          大阪狭山市立公民館 「相手も自分も大切にしようキョリ感のコト」          大阪府立藤井寺工科高校定時制 教職員 「セクハラ防止のために～」          大阪府立八尾支援学校中学部 保護者教職員研修 「境界線ー健康教育ー」          富田林子ども家庭センター（太子学園） 「障がいのある子どもへの性の健康教育/性・生を視点から考える」          四條畷市障がい者基幹相談支援センターさつき 「好きな人ができた！」          門真市人権市民相談課 市民対象 「子どもたちの性を人権の視点から・・・」</p>

## 子どもの権利条約関西ネットワークの活動から

子どもの権利条約全国フォーラム 2022 in 那覇 に参加しました  
昨年度に引き続き、7人の子ども・ユースが参加し、「子どものけんり なんでやねん！すごろく」の分科会を担当しました。スタートの挨拶、アイスブレイクから、ネットワークの活動、すごろくの成り立ち、自分たちの想いまで、子どもたち自身が発表してくれました。子ども会議のメンバーは少しずつ増え、自分たちでもすごろくを作成した経緯を振り返り、子どもの意見表明権の意義を深めています。



分科会は盛況で37名の参加者と「なんでやねん！」とツッコミを入れながら、すごろくを楽しみました。多くの方から、用紙いっぱいの感想を頂けたので紹介します。今後も、遊びを通して子どもの権利条約を知る「なんでやねん！すごろく」を携え、子どもたちの感じていること・思っていることに寄り添って「話していいんだ！もっと話したい！もっと聞いて！」と子どもの声があふれるような時間を過ごしたいです。そして子どもも、おとなも「楽しい！面白い！ワクワクする！」と心が動く活動を行っていきたいです。

なんでやねん！すごろくは、おもしろ過ぎる！！①子どもの権利条約の意味②ゲームの面白さ③なんでやねん！の意味と、自分のなんでやねん！！も面白い④最後に子どものなんでやねん！を権利条約と繋げて、自分の何の権利が奪われているか？考えることも大事だと思った

すごろくを通して、子どものリアルな声が聴けた！学童でもやってみたい

子どもの権利条約をはじめて知ったけど、かたくるしくなく、楽しくみんなと話せてよかった。沖縄バージョンも作りたい

全体会では、小出楽菜さんが関西ネットワークの代表として、緊張しながらも舞台上に上がりました。子どもの権利条約を学んでからの、自分の変化を語ってくれました。子どもの権利を知らなかった5年生の頃より、笑顔が増え、沢山しゃべるようになり、毎日が楽しくなってきた、というストーリーにとっても説得力がありました。翌日、新聞記者からの取材を受け、周りの友達や、地域の子供達に「子どもの権利条約」を知ってほしい理由を、自分の言葉でしっかりと伝えていました。



全国フォーラムの2日間を終えた後は、関西ネットワークのメンバー総勢14名で、沖縄平和学習ツアーを行いました。

弾丸ツアーの内容を紹介しますw

沖縄大学から対馬丸記念館へ移動→読谷村、何我舎（ぬーがーやー）に宿泊、ここは多くの人が集団自決したチビチリガマの研究をされている知花さんの宿で、実際に見た話を聞くことができた。翌朝、現地を訪問しその場で、同じ土を踏んでここで行われたことを知る。→佐喜眞美術館、壁一面の沖縄戦の絵画を前に圧倒される。



→子どもたちのリクエストである、美ら海水族館、



沖縄のマクドナルド→沖縄NPO法人ちゅらゆいさんにて、同じ世代の子ども達と交流、全国フォーラムで出会ったおとなとも再会！その後はBBQでたっぷりおなかを満たせば、会話も弾む。「私たち大阪で沖縄のエイサーを習っているねん」同学年の子と屋上で鬼ごっこ「暑い～」「スイカ好きなん？あげる～」「この曲弾けますか？では、セッションしましょう」最後に「ジュゴンの見える丘」を合唱。同じ時間を同じ場所で過ごす、一緒に遊ぶ、そこから相手を知る、理解する、に繋がることを子ども

もたちの様子を見ながら感じました。

翌日は、琉球ガラス村→ひめゆり沖縄平和祈念公園→平和祈念堂→ウミカジテラス→那覇空港→大阪へ戻りました。この2日間でおとなは平和について伝えたかった。子どもたちにきっと伝わった。そして子どもは安心して、思いっきり遊び、楽しんだことでしょう。

「あーもっと沖縄に居たかった」「楽しかった」「来年のフォーラムも絶対参加する！」「疲れた」とそれぞれの感想を述べて帰路につきました。

\*全国フォーラム参加にあたり、子ども達への資金サポート、現地コーディネイトなど助成金や沢山の方のご協力がありました。お礼申し上げます。（はしもと）



に取り上げられました！

[https://www.fmosaka.net/\\_ct/17606530](https://www.fmosaka.net/_ct/17606530)

2月18日の第99回てらすトークにて、「子どものけんりなんでやねん！すごろく」を取り上げて頂きました。さすが、伝えるプロのトーク力、文章力には脱帽です。なんでやねん！すごろくをわかりやすく説明してくれた最後に『子どもの意見形成、意見表明を支えるには、子どもたちの声に耳を傾けるおとなの存在と姿勢が大切！』と打ち出してくれています。すごろくの広報に使いたいぐらい。ぜひ聞いてみてください。

最後に、こども基本法の2023年4月施行に伴い、子どもの権利条約理念の実現にむけて、おとなの意識をさらに高めたいところです。今後は子ども条例を制定する自治体が増えることが予想されるため、地方選も含め、地方自治に注目していき、堺市でも条例制定に向けて動いていきたいです。

## 【研修報告】

内閣府地域における男女共同参画を支援するためのアドバイザー派遣事業

### 『子どもを暴力に向かわせるのは「何」？』

しんすこ

辛淑玉さん（「のりこえねっと」共同代表）



子どもが生きる社会はそれぞれの国の歴史の上であり、子ども自身では選ぶことができないし、その社会を変えるには長い年月がかかる。

おとながしんどい社会は子どももしんどいから、社会の「良さ」「ゆがみ」を発見するには、他はどうなんだろうと考え知ることが大切だと話されました。

他国でのエピソードも多く話され、どの国がいいとか、悪いとかではなく、自分たちがこうありたいという社会像を持つ事、そして『相手を推しはかる』のでは解決はできない、言葉で話さない社会は変わらない、「わたしは10年後こうありたい」「わたしはこう思う」と言葉に出そうと。（←わたしは早速ワークで使いました。）小さなことにもしっかり向きあって言葉にしていきたい。ポイントになる言葉がたくさんありました。

#### ○「主張することとコミュニケーションすることは両立する」

たとえば、ドイツでは障がいを持つ人が電車内で「席を替わって」と言うと「今日は疲れているからいや」と断ることも日常的、すると他の人が「今日は仕事が楽だったから替わるよ」日本だと、まず「替わって」も言いにくいし、言われた人は寝たふりするか、仕方なく替わる？



#### ○「戦い続けるから、民主主義は継続される、戦わない大人は軽蔑される」

たとえば、アメリカでは同世代の子が戦地に赴かなくてはいけない事態が起ころうになり、高校生がデモに参加する。「今やらずにいつやるの？友だちが連れて行かれるのに！」日本では、「高校生は学業が本分、デモに参加するなんて…」という風潮。（しおざき）

#### 〈参加者の感想より〉

○辛さんからパワーをもらったのでとてもよかったです。「不便」が必要ですね。便利なことも良いですが、それより「生きる力」が自分の意見を伝える主張することができにくい人を作ってしまうと思いました

○海外の産婦人科でのエピソードでは、基本、DVを疑うため男性の付き添いは病院に入れない。海外で日本のヤンキーについて説明がつかなかったエピソードが興味深かったです。先生に反抗する、髪の毛の色染めてる、入れ墨入れてる、海外の子どもはみんながしていること。自己主張は大事。間違っても意見を言えるって大事な事だと思った。

○民主主義は不便なことだということばにまさしくて思った。少々の不便さに考えられる力が育まれる。子どもの暴力防止にはあきらめない。

○言葉伝えることの大切さはおとな同士だけでなくおとなと子どもの関わりの中で行動に示すことで子どもたちにも広がる。私はこう思う。OKもそうでない事でもリアクションの大切さを感じました。そして大阪の可能性・・・に元気をもらいました。（笑）イラクの映画も見たいと思います。

○私もレイシズムや戦争にプロテスタントできる大人でいたい。精一杯やっていますね！気持ちを繋いで、これからも同じ世界でこの社会を手放さず、みんなで生きていけますように！！

## 『子どもの権利 ～子どもは権利の主体者』

重永侑紀さん(NPO法人にじいろCAP代表理事)

1月29日、ひろばスタッフ研修でNPO法人にじいろCAP代表理事の重永侑紀さんの「子どもの権利 ～子どもは権利の主体者」の受講をしました。

重永さんは九州からリモートでお話をしてくださったのですが、距離を感じない穏やかながらも熱気あふれるお話しで、「権利」や「人権」など難しそうなお話しを、笑いがある楽しい雰囲気、身近な言葉や物事として学ばせて戴きました。

最初に、「権利とは?」「私たちは学校で誰の人権について学習してきたのか?」との問いかけで権利は人が人として当たり前にあるもので「義務や責任が伴う」事ではないと言う事や、今まで、どこかにいる誰かの他人事の様になっていたかもしれない、もっと意識していかないといけない事に気が付きました。

日本では少子化が問題になっているけれど、ひろばにいると沢山の子ども達に会う為にどこか漠然としか感じていませんでしたが、5分の4の世帯にはリアルな子どもがいないと聞き、子ども権利条約が周知されつつあっても、殆どの人がジブンゴトとして捉えるのが難しい現状を感じました。

研修はアタッチメントや境界線、アドボカシーなど、他にも沢山の事柄で子どもの人権や権利が根底になっているのに気が付かされ、沢山の学びや気づきがあり、1回の研修ではなくそれぞれ何回かに分けて深めたいお話しばかりでした。

その中でも、依存先を増やしていく事で自律、そして自立へ、は自分の中にはなかった考えで、権利の奥深さ、大切さを痛感しました。

子どもの権利というものが「飲酒運転は法律違反」や「サッカーではキーパー以外手は使わない」というのが当たり前と言うように、誰かの事としてでなく、すべての子どもや人にとってジブンゴトとして身近で当たり前でできるかを考え続けるのと、ひろばで子どもだけでなく、保護者を含め子どもをとりまくおとなの人の権利も大切にして寄り添っていけるように、支援に携わる私たちが子どもの権利を周知するだけでなく、できる事は何かと考え学び続けたいといけなく強く思いました。(F&J)

### ローズカーニバル バザー拠出品のお願い

5月21日(日)堺市西区の浜寺公園において4年ぶりにローズカーニバルが開催されます。ESはフリーマーケットに参加し、今回も売上金を障がいのある子ども達へのワークショップ費用などに活用します。

タオルや食器類などなど、フリーマーケットへの品物の拠出のご協力をお願いします!! ES事務所にお送りいただくか、事務所にお問い合わせください。



## CAP の活動報告

	子どもワークショップ									おとなワーク ショップ	
	小学校			幼稚園・保育所			中学校			回数 (教職員)	人数 (教職員)
	校数	クラス数	人数	校数	クラス数	人数	校数	クラス数	人数		
5月	0	0	0	1	2	46	0	0	0	2 (1)	43 (3)
7月	0	0	0	1	1	20	0	0	0	1 (0)	5 (0)
10月	9	19	533	0	0	0	0	0	0	10 (9)	108 (28)
11月	35	71	2074	0	0	0	0	0	0	35 (35)	106 (106)
12月	22	59	1877	1	2	35	1	2	57	25 (25)	94 (94)
1月	21	53	1619	1	1	31	2	6	186	23 (23)	93 (93)
2月	5	12	330	0	0	0	4	19	639	10 (10)	58 (58)
3月	1	3	85	0	0	0	2	6	204	3 (3)	20 (20)
合計	93	217	6518	4	6	132	9	33	1086	109 (106)	527 (402)

SNP プログラム (障がいのある子どもへの CAP プログラム)

・ 1 2月支援学校 1 校 2 ワーク 2 8 名 ・ 2月支援学校 1 校 2 ワーク 3 0 名

### 一般社団法人日本きょうだい福祉協会設立のお知らせをきいて

ES のオレンジりぼん事業部では、堺 CAP プロジェクト発足したばかりの 1 9 9 7 年頃より、あゆみの会 (現: ころクラブ) と協力関係でワークショップを行うなかで、障がいのあるきょうだいへのワークショップを始めた。2 0 0 1 年に米国きょうだい支援プロジェクトのドナルド・マイヤー氏とアン・ガスリー氏が日本に来日するというこゝで、ES メンバー 2 名が東京へ「シブショップトレーニング研修」を受講したことをきっかけに、今でもきょうだい支援をする方々とつながり情報を共有している。「きょうだい支援を広める会」が 2 0 2 3 年 4 月 1 0 日に「一般社団法人日本きょうだい福祉協会」を設立する。

<https://sibwellbeing2022.wixsite.com/website>

始めた頃は、きょうだい支援をしている人は少なく情報を得るのがとても大変で、きょうだいへの情報提供が必要な事を伝えても初めて聞くというような対応をされることが多かった。「きょうだい支援」という言葉が 2 0 年前より、福祉や教育の関係者に認知度が少しずつ上がってきているのを感じるが、まだまだ知らない人が多い。当事者 (きょうだい)、保護者、支援者がきょうだい支援の情報を得たい時に、この「日本きょうだい福祉協会」からの情報が役立つこと間違いなしと考える。日本全国のきょうだい支援を必要と考える人が結束してできた、この法人の力を感じる。微力ながら、私も力になれることをしていきたい。(たえぼん)

## ES からのおすすめ書籍

ご購入・お問い合わせはえんぱわめんと堺まで



### ガイドブック『エンパワメントへの道しるべ』 えんぱわめんと堺発行

子どもたちのつぎやきから気づいたこと、エンパワメントの関わりで子どもが変化した瞬間のエピソードには子どものみかた・味方・見方がちりばめられています。ワークショップや研修で使えるプログラムを掲載。子どもに関わる支援者や、教職員の方々に好評をいただいています。子どもへのエンパワメントの関わり、また職場での人間関係構築の参考に♪  
税込 2000 円

ES のサポーター栗本敦子さんの初著書！！

4 月中旬発行予定（まだ発売前で、読んでいないけど、このワークブック使って栗本さんにワークショップしてほしいっ！）



### 『これからの社会を生きていくための人権リテラシー 高専発！

書く・話す・考えるワークブック』 栗本敦子・伏見裕子著

これからの社会を生きていく上で大切な知識・スキル・態度のベースとなる「人権リテラシー」を楽しく学べる、学習者目線のワークブック。これまでの人権教育の豊かな実践を盛り込み、基礎的事項の解説のほか、アクティビティやグループワーク、発展課題など、手を動かしながら学べる要素が満載。HP を通して、指導者・個人学習者向け資料やワークシートも活用できる。中・高・大学生ほか、大人も必読の内容。

（出版社の PR より）北樹出版 税込 1320 円

講師で来てくださった i p p o さんの新著！！

子ども達とのやりとりや具体的な姿の情景が目に見え、胸に込み上げる場面もありました。子どもに関わるすべての人に読んでほしい本です。



### 『じぶん、まる！』 田中一步 文と絵

～子どもたちといっしょに、性の多様性から「じぶん」について考える～  
ボクはじぶんを生きたいと一生懸命言っている小さな子どもたちの存在を、いないものにしてはいけないと思っています。小さいから……子どもだから……それは理由にはなりません。小さくても、子どもでもじぶんを生きる権利があります。そして、その小さな子どもたちの近くで悩みながらもその子どもたちのキモチを大事にしようとしている大人たちがいます。（さいごにより） 解放出版社 税込 1320 円

## 第21回えんぱわめんと堺 総会&イベントのご案内

☆日時：2023年5月20日（土）

総会-13:30~14:30 総会イベント-15:00~16:30

☆場所：堺市産業振興センター 会議室4



総会イベントとして2023年度第1回のエンパワメントファシリテーター研究会を開催します  
テーマは「エンパワメントになろう」

わたしたちは、1人でも多くのエンパワメントが共に子どもたちに関わる社会をめざします。  
イベントにつき、参加費は無料です♪ ぜひ、ご参加ください♪

会員募集～入会手続き～

正会員 5,000円

(初年度のみ入会金 3,000円)

賛助会員 1,000円（入会金なし）

更新日は年2回（1月31日・8月31日）です。

◎ 会員有効期間は1年です。

◎ 郵便振替～通信欄に必要事項をご記入ください。

加入者名 特定非営利活動法人えんぱわめんと堺

口座番号 00920-9-182116

正会員 30名

賛助会員 58名（76口）

2023年4月現在

寄附金 38,147円

（2022年4月～2023年3月）

ESの活動はみなさまからの寄付、  
ご支援にささえられております。  
今後ともよろしく願いいたします。

特定非営利活動法人えんぱわめんと堺/ES

〒599-8244 堺市中区上之801番5号

TEL: 072-230-5588 FAX: 072-230-5589

E-mail: [empowerment@lily.ocn.ne.jp](mailto:empowerment@lily.ocn.ne.jp) <https://www.npo-es.org/>

ホームページやFacebookも見てね



### 編集後記

受講した講座で講師が「疲れた時は遊ぶ」と話されていたことが印象に残っている。ESのメンバーはよく遊ぶ。2学期以降ワークや研修で多忙な日が続いたが、みんな時間を作って、食事や旅行に出たり、身体を動かしたり、趣味を楽しんだり、新しいことにチャレンジしたり。さらに学びの場に参加したりする。学びも遊びの一環になってる！と感じる。遊び方はみんなそれぞれ違うけど、次の日からのエネルギーになり、ワークに活かされてるなあ～とつくづく思う。遊ぶのだいじ♪今年度もいっぱい遊んで楽しんで、子どもたちにワークを届けたい♪（しおざき）

イラスト提供：ふわふわ。り

